

### 3-8 トキのモニタリング体験（早朝と夕方）

環境省が専門のスタッフや訓練を受けたボランティアによって行っているトキモニタリングに同行します。人数は限られますが、野生復帰の一端を経験します。

2008年9月25日に10羽のトキが試験放鳥されてから、今後の環境整備や放鳥計画などを考える上で必要な調査をするために「モニタリング」（追跡調査）を行っています。

モニタリングは、環境省によって専門チームが組まれています。専門チームによる確認作業や機器（GPS）を使った調査のほか、放鳥までに環境省による研修を受けたトキモニターボランティアによる確認作業、さらに住民の目撃情報などによって行われています。

トキのモニタリングは、トキに影響を与えないよう、数百メートル離れた距離からトキに気がつかれないように望遠鏡などを通して行われています。早朝、ねぐらから飛び立った後からエサ場での行動などを辛抱強く観察します。このモニタリングに同行し、野生復帰に関わる仕事の一端を体験します。

#### ■放鳥トキのモニタリング

##### ○地上からの調査

目視調査です。そのため、試験放鳥のトキには個体の足輪や羽へのカラーマーキング（アニマルカラー）がつけられています。カラーマーキングは半年程度識別可能とのこと。

「専門チーム」は、研究者や専門家で組織されています。

「トキモニターボランティア」は、2008年度に環境省が実施したトキモニター講座と訓練を受けた市民の方々です。専門チームの調査を助けます。

「地域住民の目撃情報」も貴重なデータです。日常の生活の中でトキを見つけたら、トキ交流会館に情報を伝えていただき、専門チームが役立っています。

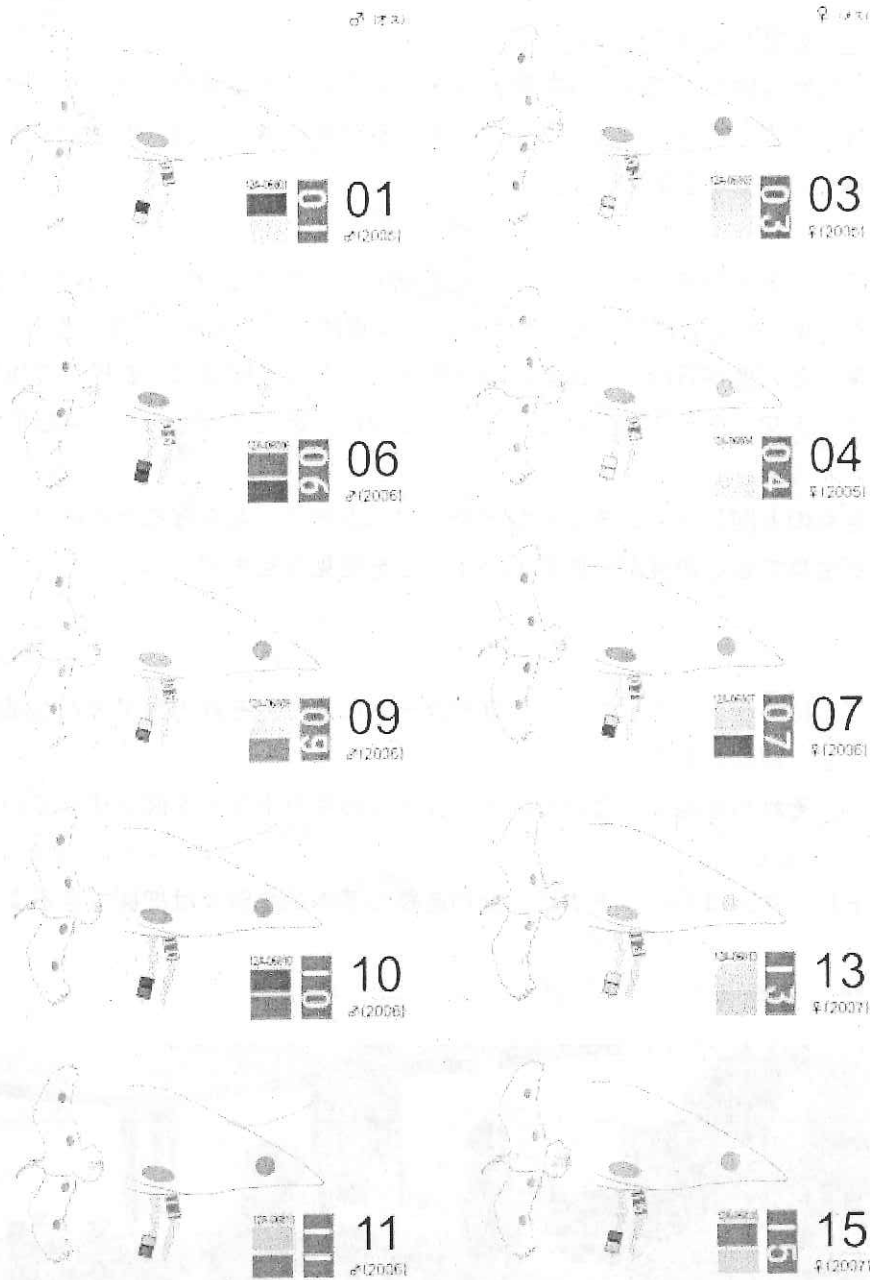
##### ○機器によるモニタリング

放鳥された10羽トキのうち、6羽には小型の発信器がつけられ、衛星利用測位システム（GPS）で行動を追跡できるようになっています。電源は、電池と太陽光発電の2タイプあり、重さは約40～50gで、トキに負担がかからないようにしてあります。記録データは、4つの発信機は3日に1度、2つの発信機は10日に1度、専門家チームに送られます。これによって、トキの行動を後から把握することができます。ただし、山の陰などトキの居場所や天候によっては記録ができなかったり、データを受信できないこともあります。



必要な道具：ハイキングの服装、歩きやすい靴

所要時間：2時間程度（早朝、夕方中心であり人数にも制限がある）



放鳥トキのカラーリング（見分け方）

■ねらい

野生生物の自然への再導入（野生復帰）には、人間側が慎重に対応する必要があります。その一方、トキのように人の暮らしに近いところで生活する場合、そこで暮らす人の生活に特別な制約を加えることはトキのためにも、人のためにもなりません。観光客の人や、調査チームのような人の場合と、地域で暮らす人とではトキへの接し方が異なることを学び、トキを間近に見ることで、命の尊さ、大切さを感じます。